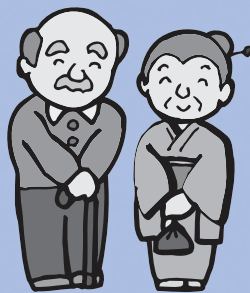


特集

夫婦善哉

め お と ぜんざい



昨年、手稲区でめでたく金婚式（結婚五十年・昭和二十七年結婚）を迎えたご夫婦は十三組、ダイヤモンド婚式（結婚六十年・昭和十七年結婚）を迎えたご夫婦は一組でした。

今月は、長年手稲にお住まいで、昨年金婚式を迎えたご夫婦に、思い出話や夫婦円満の“コツ”などを楽しく語ってもらいました。

また、昭和二十年代、三十年代の懐かしい手稲の写真で、当時の様子を振り返ります。



丸子

忠さん (76歳)
和子さん (75歳)

稲穂2条5丁目

●俺で三代目だ！

「じいさんが、明治二十三年に広島県からここ（稲穂）に移り住んで、三代目だよ」と忠さんは教えてくれました。実家の農家は長男が継ぎ、三男の忠さんは、十四歳で国鉄に就職。以来、定年を迎えるまで小樽駅に勤務しました。

忠さん二十六歳、和子さん二十五歳のときに、お見合いで結婚をし、三人のお子さんをもうけました。

●昔の思い出

「私が嫁いできた当時は、家の周り一面に畑が広がっていて、隣の家といっても、ずっと向こうに見えるだけ（笑）。驚きましたね。夜になると辺りは真っ暗で怖かったです」と和子さん。自宅は国道5号沿いにあり、今でこそ大変な交通量ですが、昔はなかなか車が通らなかつたそうです。

また、自宅を改築した昭和五十二年には、ほとんど二人で、内装を完成させました。「勤務のない日に作業したから、半年かかってしまった。二階は、しばらく壁がなかったね（笑）。二人で足場を組んで、断熱材を敷き詰めた思い出があるから、家は古くなつたけど大切にしているんだよ」と笑うお二人です。

●一番の思い出

「国鉄を退職した昭和六十一年に、夫婦で九州に一週間ほど旅行したことだね。あんなに長く、夫婦だけで旅行したのは初めてだったよ」と忠さん。和子さんと同じ気持ちなのか、うなずいていました。